

福岡市文学館定例講座「ももちはま草紙」第85回

中村哲医師の遺した事業と思索

—そのモチベーションの源流を辿る

9月開催の文学講座は、昨年12月、アフガニスタンで凶弾に倒れた中村哲医師について、生前交流の深かったお二人をお迎えしてお話いただきます。アフガニスタン・パキスタンの地に遺した仕事の原点には、社会運動に奔走した父・中村勉(つとむ)やその義兄で芥川賞作家の伯父・火野葦平ら家族の存在や様々な思索がありました。今回の講座では、大きな影響を与えた家族や思索を手がかりに、中村医師が遺した仕事や言葉から知られざるその生き方の源流(ルーツ)に迫ります。

日時 2020年9月12日(土)14時~15時30分(開場13時30分)

会場 福岡市総合図書館3階第1会議室

814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1

**入場
無料**

※ご参加の際は、必ずマスクの着用をお願いします。

※新型コロナウイルス感染症の影響により、プログラムが変更となる場合があります。

ふくもと みつじ
講師 **福元満治** 氏

(図書出版「石風社」代表、ペシャワール会事務局広報担当理事(前事務局長))

さかぐち ひろし

坂口博 氏(福岡市文学振興事業実行委員会委員)

定員 **40名**(要事前申し込み・抽選) 申し込み締切 9月5日(土曜日)

応募事項 (1)氏名 (2)郵便番号 (3)住所 (4)電話番号 を漏れなく記載し、
電話、FAX、メールのいずれかの方法でお申し込みください。1人1口。

定員を超えた場合は抽選になります。落選者のみ9月6日(日曜日)に連絡します。

※申込時にいただいた個人情報は、コロナウイルス感染症対策のため保健所などから
要請があった場合、情報開示することがあります。

§お申し込み・お問い合わせ先§

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1

総合図書館文学・映像課 福岡市文学館担当

TEL 092-852-0606 FAX 092-852-0609

Email library-bungaku.BES@city.fukuoka.lg.jp



講師 福元満治氏

(図書出版「石風社」代表、ペシャワール会事務局広報担当理事(前事務局長))

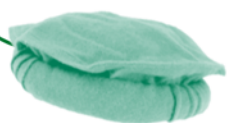
1948年鹿児島県鹿児島市生まれ。現在、図書出版「石風社」代表。ペシャワール会広報担当理事(前事務局長) 著書に『伏流の思考 私のアフガン・ノート』、『出版屋(ほんや)の考え休むにいたり』、絵本『岩になった鯨』(絵・黒田征太郎)など。「石風社」の出版物として、中村哲著『医は国境を越えて』他、石牟礼道子著『完全版 石牟礼道子全詩集』、渡辺京二著『細部にやどる夢』、宮内勝典著『南風』他。

講師 坂口博氏(福岡市文学振興事業実行委員会委員)

1953年佐賀県伊万里市生まれ。福岡県立東筑高校卒業後、いくつかの職を経て、現在は火野葦平や「サークル村」関係などの文学研究と文学館活動に専念。文学批評誌「紋説」同人。著書『校書掃塵—坂口博の仕事 I』(花書院)、共編著『「サークルの時代」を読む』(影書房)、共著『活字メディアの時代』(福岡市・新修「福岡市史」特別編)、『〈原爆〉を読む文化事典』(青弓社)。福岡県福津市在住。

講師からのメッセージ

2019年12月4日朝、現地事務所から2台の車で作業現場に向かっていた中村医師の一行が、武装集団によって襲撃された。その銃撃によって、中村医師とドライバーそれに護衛4人のあわせて6人の方が亡くなった。私たちペシャワール会は、現地の事業体PMS(平和医療団・日本)とともに中村医師の遺志を継いで、医療・農業支援・農業用水路建設の3つの事業を継続・推進している。今回講座では、中村医師が主導したアフガニスタンでの35年間にわたる事業の概略とその思索の跡を辿り、その源流を探る。



§お申し込み・お問い合わせ先§
〒814-0001 福岡市早良区百道浜3-7-1
総合図書館文学・映像課 福岡市文学館担当
TEL 092-852-0606 FAX 092-852-0609
Email library-bungaku.BES@city.fukuoka.lg.jp



自決定着村の防風林の植樹をする中村哲医師